

家庭学習で 自ら学ぶ力を育てましょう

さまざまな調査において、日本の子どもたちの学習習慣や学習への関心・意欲が、他の国々と比べてかなり少ないことが指摘されています。最近、話題となっている学力低下には、子どもたちのこのような実態が大きく影響していると考えられます。

本校では、基礎学力の向上を図るため、日常の学習指導の充実に努めていますが、子どもたちの学習習慣の形成を図ることもその対策のひとつと考えています。

学習習慣の形成は、学校での指導だけでなく、家庭での生活が大きく影響します。そこで、家庭と一層連携して、子どもたちの学習習慣の形成に取り組みたいと考えています。自ら学ぶ力、学習する習慣も学力です。

この家庭学習のてびきを活用して、学習の習慣化に取り組みましょう。

家庭学習のねらい

授業で学んだことを
しっかりと身につける

学習の基礎・
基本をしっかりと
身につける

自ら学ぶ力を育てる

学習する習慣を
身につける

宇都宮市立宝木小学校

家庭学習ができるようになるために

【学習の土台となる家庭生活を見直しましょう】

①規則正しいリズムある生活をつくる

- ・朝食は必ずとらせましょう。また、排便をきちんとさせましょう。
- ・テレビを見る時間やゲームをする時間を親子で決めましょう。
- ・睡眠時間を十分にとり、早寝早起きの習慣を身につけさせましょう。
- ・家族の一員であるという自覚を持たせ、家の手伝いなど、家庭での役割をしっかりと持たせましょう。
- ・学校に持っていくものを、自分で前の日までに確かめさせ用意させましょう。

②家庭でコミュニケーション能力を育てる

- ・子どもとの対話を大切にし、コミュニケーション能力を育てましょう。
(親子の会話・あいさつと返事・言葉づかいなどをとおして)

③可能性を伸ばすようなはたらきかけをして、情緒をはぐくむ

- ・子どもと一緒に体験や子どもとの会話を大切にし、親としての考えや生き方を示しながら、子どもの可能性を信じて温かく見守りましょう。(安心感・感動の交流・読み聞かせ・読書)
- ・「なぜだろう」「どうしてそうなるのだろう」「ちょっとおもしろそうだな」という子どもの気持ちを受けとめ、会話を通して自ら解決できるよう励ましましょう。

④家庭での学習環境を整える

- ・勉強する場所を決めましょう。
- ・子どもが学習している時はテレビを消してください。
- ・保護者の目の届くところで学習をさせましょう。(低学年)
- ・学習の取り組みを確認することも行いましょう。
- ・勉強する所をきれいにしてから、よい姿勢でさせましょう。

【家で学習する習慣をつけましょう】

①家で学習する習慣をしつけることから始めて、自主的に自立した学習ができるようにしましょう(始めは強制でも、続けると自分流の学習が生まれます)

②家庭学習のやり方がわかるようにしましょう(学校と家庭との協力)

③家庭学習の時間を親子のふれあいの場とするようにしましょう
(親子読書をする・対話をする・得意なことをほめて自信につなげる)

成長に応じたかかわり方を心がけましょう

低学年では、学習する気持ちを伸ばしましょう

■低学年の子どもは、「何でもやれるよ。できるよ。」と言うことがよくあります。しかし、実際にはなかなか一人でやるのがむずかしいです。保護者の協力なしに、家庭での学習はできません。やる気を失わない温かい助言や励ましを与えて、学習する気持ちを伸ばしましょう。

●学習する習慣を身につけるために

- ・宿題のしかたを、しっかりと教えてあげることが大切です。
- ・時間を決めて毎日学習させましょう。（1年生 10～15分、2年生 20分～30分）
- ・やることを決めておき、短い時間でむりなく学習させましょう。
- ・わからないことをすぐに尋ねられるようできるだけ子どものそばにいてあげてください。

●学習する気持ちを伸ばすために

- ・学習したら見てあげて、子どものがんばりを認めてあげましょう。
- ・親子でふれあいながら楽しく学習する体験をさせましょう。（家の人と一緒に読書など）
- ・様々な体験を大切に、親子で取り組み、学ぶことの楽しさを教えたり経験させたりすることが大切です。

中学年では、自立の芽を大切に育てましょう

■中学年になると、自分で決めて行動をしようとする気持ちを持ち始めます。しかし、その反面、なかなか自分への甘えを克服できない時期でもあります。ですから、子どもの葛藤を知り、温かく見守ってあげる心の余裕も必要となります。自立の芽を育てるために声をかけたり見てあげたりするなどの手助けも必要です。

●学習する習慣をしっかりとしたものにするために

- ・時間を決めて毎日学習させましょう。（3年生 30～45分、4年生 40分～60分）
- ・学習の計画を一緒に立てましょう。
- ・自主的に家庭学習に取り組めるよう声をかけたり、どんなことをやっているのか子どもに聞いたりするなどして、声をかけましょう。

●学習する気持ちをしっかりとしたものにするために

- ・一緒に考えたり調べたりしましょう。
- ・くり返して取り組むことの大切さを教えましょう。
- ・どこがよくできたか、何を頑張ったのかを具体的にほめてやる気をぐんぐん育てましょう
- ・自分でやろうとする姿勢を積極的に励ましましょう。（大げさにほめましょう。）

高学年では、子どもの自主性を大切にしましょう

■高学年になると、学習に対して、自分なりの見方、考え方をもち始めます。思春期を迎えようとしている時期なので自尊心も一層強くなります。ですから、自分なりに選択したり、工夫したりしていることを大いに認めて、意欲的に取り組めるようにしましょう。

●自分で学習する習慣をしっかりとしたものにするために

- ・学習目標（内容や時間などの努力目標）をもたせ毎日学習させましょう。（5年生 50分～75分、6年生 60～90分）
- ・自分のペースでじっくり取り組ませましょう。

●自分で学習しようとする気持ちを伸ばすために

- ・自分が学習する目標（何のために勉強するのか）を考えさせることが大切です。
- ・子どもにあったやり方を一緒に考えましょう。
- ・自己肯定感を高めるために、自分で評価させましょう。

宿題のほかに家庭でおこなう学習の参考例(各学年共通)

- 国語 ・ 漢字練習 ・ 意味調べ ・ 視写 ・ 日記 ・ 教科書の音読
 ・ ことばの使い方を覚える ・ 詩や物語作り ・ 親子読書など
- 算数 ・ 計算練習 ・ 百ます計算
 ・ テストや教科書の問題をもう一度写して解いてみる
- 社会 ・ 勉強したことのまとめ ・ 歴史人物調べ
 ・ 新聞やテレビのニュースで気になったことのまとめ
 ・ 国名・県名・湖の大きさランキング等の調べ
- 理科 ・ 勉強したことのまとめ
 ・ 身近ななぜ・どうしてを観察・実験・不思議調べ
- 生活 ・ 家の仕事の実践・地域の様子調べ
- 総合 ・ 自分の追究している課題を本やインターネット等での調べ
- 音楽 ・ 鍵盤ハーモニカやリコーダーの練習
- その他・裁縫・調理の復習・鉄棒など
- ※市販のドリルや問題集などに取り組んでみるのもいいでしょう

生活の中で、

目に見えにくい力をつけよう

- ・ 読書は目に見えにくい学力を高めます。
- ・ 国語辞典・漢字辞典その他の事典や図鑑類を身近に置いて調べよう。
- ・ 日本地図・世界地図を近くに置き調べよう。
- ・ 地球儀をテレビの近くに置いて調べよう。
- ・ ニュース番組を親子で見て話し合おう。
- ・ 新聞を読もう。
- ・ 百人一首など詩歌の暗唱をしよう。
- ・ 将棋や囲碁など頭を使うゲームをしよう。
- ・ 自然や生き物とふれあい、くわしく観察しよう。
- ・ 家の仕事をめんどうがらないでやろう。

小学校の各学年で身につけたい力

1年生

- ①鉛筆を正しく持って字が書ける。
- ②ひらがな・カタカナの清音が読めて書ける。
- ③助詞(て・に・を・は)を適切に使分け文章が書ける。
- ④たし算・ひき算ができる。
- ⑤80字の配当漢字がすべて読め、8割の漢字が書ける。

2年生

- ①160字の配当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ②順序よく話をするができる。
- ③順序を表す言葉や接続語を用いて詳しく書ける。
- ④九九がすらすら言える。
- ⑤定規を使って筆算をきれいに書きながら計算できる。
- ⑥決められた長さの直線を正しく引ける。

3年生

- ①200字の配当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ②短い詩が暗唱できる。
- ③簡単なことわざを知っている。
- ④主語と述語の意味が分かる。
- ⑤かけ算の筆算ができる。
- ⑥わり算ができる。
- ⑦はかりを使って重さが読める。

4年生

- ①200字の配当漢字のすべてが読め、8割の漢字が書ける。
- ②ローマ字を適切に読み書きできる。
- ③文と文のつながりを考えながら、指示語や接続語が使える。
- ④国語辞典・漢字辞典が正しく使える。
- ⑤わり算の筆算ができる。
- ⑥倍を使った文章問題が正しく解ける。
- ⑦コンパスを使って簡単な図形が描ける。
- ⑧分度器を正しく使える。
- ⑨地図を使って見知らぬ場所や地名が調べられる。

5年生

- ①185字の配当漢字がすべて読め、8割の漢字が書ける。
- ②今まで習った漢字を使った熟語の8割が書ける。
- ③小数のかけ算・わり算ができる。
- ④分母が同じ分数のたし算・ひき算ができる。
- ⑤割合・百分率を使った問題が解ける。
- ⑥抵抗なくパソコンでローマ字入力ができる。
- ⑦47都道府県の位置が分かり、都道府県名を正しく書ける。

6年生

- ①小学校で習得すべき漢字(1006字)のすべてが読め、8割の漢字が書ける。(6年生の配当漢字は181字)
- ②小学校で習う漢字を使った熟語の8割が正しく書ける。
- ③歴史に残る古文のいくつかをふれ、暗唱できる。
- ④パソコンでローマ字入力ができる。
- ④分数のたし算・ひき算・かけ算・わり算ができる。
- ⑤歴史上の事件や人物についてだいたい説明できる。
- ⑥重要な年号を30程度覚えることができる。
- ⑦世界の主な国々の位置を正しく示せる。
- ⑧理科の実験道具の正しい扱い方がわかる。